

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

令和3年4月1日改正
(令和3年4月1日適用)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②施設・事業所情報

名称：瑞浪市立一色幼稚園		種別：保育所（幼保一体化）	
代表者氏名：渡 邊 冬 子		定員（利用人数）： 1 3 0 名	
所在地：瑞浪市寺河戸町1 9 0－1			
TEL：0 5 7 2 - 6 7 - 1 8 1 7		ホームページ：http://www.city.mizunami.lg.jp	
【施設・事業所の概要】			
開設年月日 昭和5 4 年4 月			
経営法人・設置主体（法人名等）：瑞浪市			
職員数	常勤職員： 7 名	非常勤職員	1 9 名
専門職員	（専門職の名称） 名		
	保育士 7 名	保育士	1 4 名
		子育て支援員	1 名
		看護師	2 名
		事務員	1 名
		用務員	1 名
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）	
	未満児保育室3 以上児保育室4	遊戯室 職員室 調理室 絵本の部屋	

③理念・基本方針（※転載）

《教育保育理念》

- ・保育を必要とする子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図ります。
- ・子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進します。
- ・子どもの健やかな成長のための保育を行い、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長します。

《教育保育理念》

- ・「仲間の中でいきいきと自分らしさを発揮し、支え合いながら自立する子」を育成します。
- ・発達を捉え、子どもの意欲を引き出す環境構成を工夫します。
- ・専門職としての資質向上のための研修の充実を図ります。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

- ・広々とした園庭には、いつでも子どもたちが好きな遊びが主体的にできるよう用意されている。また、園庭内には草花遊びや虫が生息する草むらや、登ったり滑ったりできる築山がある。
- ・近隣には公園、神社、小川、小学校があり、園外散歩で虫、生き物を見つけたり、木の実拾い等し、自然に触れることができ、散歩をしながら体力づくりができる環境でもある。
- ・一学年一クラスであり、異年齢交流を日頃から大切にし、園庭でのなかよし遊びで交流を通し、優しさや思いやり、憧れの気持ちを持ち、お互いを認め合いながら成長できるように保育を行っている。
- ・地域の方に畑を借りて野菜の栽培を教えてもらったり、近隣の高齢者施設を訪問する等、地域の人々との交流やふれあいを大切にしている。
- ・幼児期から小学校まで「かけはし期」ととらえ、小学校の教頭が来園されるとともに、1年生との交流を行う等就学に向けた連携も密に行っている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 6 年 6 月 3 日（契約日） ～ 令和 7 年 3 月 14 日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3 回（平成 29 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

<絵本部屋を設置し、絵本と触れ合う機会を多く作っている。>

多くの絵本を取り揃え、子どもたちが直接手に取って見たり読んだりすることができるように、整理されて、配置されている。今、本を読みたい子がある場に行って、手に取り、置かれた椅子に座って読むことができるように配慮されている。貸し出しもでき、家庭での交流にも役立っている。

<子どもたちの主体性を尊重した保育が実践されている。>

子どもたちが主体的に活動を選び、チャレンジできるよう、一人ひとりの子どもの理解とそれに基づく新たな選択肢を提供できる保育者集団としての力量を持っている。そして、それぞれの子どもの個性を尊重し、「遊び」に集中できるよう、安心・安全な保育環境の中で、子どもの内面的な力の引き出すための保育に取り組んでいる。また、保育室には手作りのものが多く、牛乳パックを利用した椅子、積み木など軽く安全なおもちゃが用意されている。

<保育の質の向上に積極的に取り組んでいる。>

園では、人材育成に取り組んでおり、保育の質の向上に向けた活動に熱心に取り組む、園内研修、園内公開保育、カリキュラム研、クラス研究等を通して、エピソード記録も踏まえて、

子どもの共通理解を深めるとともに、その上で一人ひとりに合った援助対応を話し合い、課題に向き合っていく姿勢を持って子どもの心に寄り添う保育に取り組んでいる。

<業務のＩＣＴ化を推進し、効率化を図っている。>

保育園専用業務支援システムを導入し、書類を簡素化する等、費用対効果を考えつつ、業務効率化を推進するとともに、経営体質の強化に向けた取り組みを行っている。

◇改善を求められる点

<さらなる質の向上に向けた取り組みに期待したい。>

今後とも現状に満足することなく、さらに理想を高く掲げ、評価の良かった点についても更なる改善に努めることで、今後、多様化する地域の子育てニーズに対応した保育サービスの提供に邁進していただくことを期待する。

<福祉人材の確保・定着等について、さらなる取り組みに期待したい。>

今後、外国籍の園児や障がいを持つ子どもの増加等、保育のニーズの多様化が予想され、対応する専門職の配置が必要となると考える。また、人材の定着を確かなものにするために、働きやすい職場環境の整備がますます要請される。今後とも、福祉人材の確保・定着等に関して、さらなる取り組みに期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の福祉サービス第三者評価を受審するに当たり、自己評価を通して、保育のあり方や園の運営全般について、職員間で見直すよい機会となり、職員意識の向上につながりました。今回、改善すべきと指摘された点については、継続的に改善に向けて取り組んでまいります。また、今後とも、地域の子育て拠点施設として、多様化する地域の子育て支援ニーズに対応した保育実践に努めていきたいと考えています。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。